

1	火		16	水	
2	水		17	木	
3	木	証し会	18	金	
4	金	故K兄弟納骨式(10時)	19	土	
5	土		20	日	礼拝式(野村師・呉教会)
6	日	礼拝式・聖餐式(永松師)	21	月	
7	月		22	火	
8	火		23	水	
9	水		24	木	
10	木		25	金	
11	金		26	土	
12	土		27	日	礼拝式(奨励:Y兄)
13	日	平和主日礼拝式(奨励:T姉)	28	月	
14	月		29	火	
15	火		30	水	
			31	木	証し会

8月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。(敬称略)

編集後記

- ◇ 暑さで頭がボ～っとして何も考えられないとき、ネットの「可愛い動物画像・動画」を見ると心臓がキュン♡となって、同時に脳みそがシャキッ!とします。
- ◇ 一方で、保護猫・保護犬が引き取られたものの、はじめは警戒心むきだしの彼らが、飼い主の愛情によってだんだん“家族”になっていく現実を見ると心がゆすぶられます。
- ◇ 私たちも洗礼を受けて「きょうからクリスチャンです」「神の家族です」と言われても、直ちに実感できる人ばかりではありません。
- ◇ でも、保護猫・保護犬を見守る飼い主の立場になると、私たちへの神様の大きな忍耐と愛が、ドカンと分かる気がしてきます。

岡山ナザレン教会ホームページ <http://nazaren.a.la9.jp>
～過去の月報も見られます～

教会月報

2023年8月
No.387

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

神の奴隷とは？

『では、どうなのか。わたしたちは、律法の下ではなく恵みの下に在るのだから、罪を犯してもよいということでしょうか。決してそうではない。知らないのですか。あなたがたは、だれかに奴隷として従えば、その従っている人の奴隷となる。つまり、あなたがたは罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従順に仕える奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。しかし、神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うようになり、罪から解放され、義に仕えるようになりました。(中略) 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。』ローマ 6:15～23

主なる神はその独り子を賜るほどにこの世を愛された神である。キリストの十字架と復活がそのことをはっきりと表わしている。ところが、この神の愛と恵みに私たちはつい甘えてしまうのではないだろうか。それが罪の奴隷となっていることをパウロは断言する。

“奴隷”という否定的な響きを伴う言葉を用い、パウロは信仰において大切なことを語ろうとする。それは主人(神)に従って生きるという基本的な姿勢である。誰かにマインド・コントロールされてではなく、自分の自由な決断によって信じ、従う在り方である。自発的な決断ではあるが、そこに導いてくださった神(主人)がいらっしやることを見逃してはならない。

我々は罪の奴隷としての生き方から解放されて、神に従う生き方へと引き渡された。そのことを感謝と喜びをもって受け入れ、神に従って生きていく——それこそが神の奴隷となって生きることであり、信仰者になるということである。そこで究極の模範となるのが、主の僕(=奴隷)として歩んでくださった主イエス・キリストである。このお方にならうことによって私たちも罪から解放されて生きていくことができるのである。

塩崎 悟史 牧師(水島教会)～岡山教会7月30日礼拝説教要旨

～写真は、礼拝後の塩崎先生と永松先生。塩崎先生は、教団の出版委員会を担当。最近、引き取り手が見つからない子猫を、息子さん(小3)から「手放したくない」と言われ…。～



壮年会を開きました。



7月16日(日)に壮年会の会合を開くことが出来ました。今回はオブザーバーとしてドイツから帰国された M.F.兄と、留学生のジェフリー・スティルゴ師が参加して下さり、それぞれの近況報告と今後の活動について話し合いました。来月も第三週の礼拝後に集まる予定です。感謝！

れました。まさかねえ、と思った池袋駅でも車椅子と地下鉄の職員さんが待っていて、長いコンコース移動の後、西武池袋線の職員にバトンタッチされました。その頃にはホームは人の列で詰まっています、駅員さんがまだ並んでいない別のホームを選んで電車に乗せてくれました。「会社がみんな違うのに、連絡がいくんですか?」「岡山で伝えただけなんですけど」「日本の鉄道会社がこんなに優しいなんて知りませんでした」等々、横で絶賛しゃべりまくりの私でした。予定よりは大幅に時間はかかりましたが、私も母も途中で困ることも、倒れることもなくその日の目的地に着きました。母は歩けない訳ではないので、ここまでしてもらってなんだか悪かったなとも思ったのですが、今母と生活して

母の体力の衰えを知ると、あそこまで助けてもらわなければ、途中でにっちもさっちも行かない状況になっただろうと思います。思いを越えた助けでした。主の山に備えあり、の御言葉を思い返し神様に感謝しています。



「創型展」で選賞決定

K.M. 姉



「創型展」は一年に一回、彫刻協会のメンバーと応募者たちが上野美術館で行う展示会です。開催の前に、審査委員会が出展作品の中から受賞作品を選びます。私はこの会に参加するようになってから今年で7年目となりました。

今回の「第69回創型展」に参加するため、東京に

出発した5月20日(土)に、父から速達が届いたという連絡が届き、それがなんと選賞に決定されたとの通知でした。

予想もできなかったことで驚きました。毎日淡々と自宅のアトリエで制作をする中で自信を無くすことも多く、「ここまで来たのだから前に進むのだよ」と母に励まされました。毎日「異形犬全体が“遊んでいる”形を表現できるようになりたい」と祈ってきました。そこで今回の作品では



1匹ずつ静かにじっとする形のもの、躍動感を持って暴れる形のものとの双方で創り出しました。その取り組みが、このような形で応えられたのは、作陶を続けて良いのだよという神様から私への励ましメッセージのように感じます。これからは秋に出展する大型作品の創作準備を進めていきます。



ベルリンでの生活

M.F.兄



5月、小学校のフェスタにて

主の御名を賛美します。私たち家族は4月からドイツのベルリンに住んでいます。幸い、8年前に住んでいたアパートを借りることができ、ほとんど苦勞なく過ごすことができています。今回、一番不安だったのは、結実の小学校でした。義務教育ですが、自分から動かないと何も始まらないのがドイツ。ドイツ語ができない子達のクラスに入れてもらうために、色々手続きをして、1ヶ月たって

やっと学校に行けるようになりました。主にウクライナやシリアからの難民の子が多く、楽しくも、大変みたいです。勉強以外にも大切なことを学んでもらえたらと願っています。本当に幸運だったのは、讚も家の前の幼稚園に8月から行けることになりました。本人は心待ちにしています。教会は、自由福音系の教会で楽しく過ごしています。夏は比較的涼しく、夜も10時くらいまで明るいので、家族で過ごす時間が増えました。神さまの恵みに感謝しています。

8月は、平和のために祈りましょう。
『平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。』
マタイ福音書5章9節



寄稿三題

主の山に備えあり

N.D. 姉

岡山を離れてから、あっという間に夏になりました。この間私たち家族を覚えてお祈りくださった皆さんに感謝いたします。引越当日唯一の不安は母を連れての移動でした。事前にダリさんから東京駅は車椅子サービスがあると聞いていたので、岡山駅で申し込みました。すると東京駅の到着ホームで車椅子をもった JR 西日本の職員さんが待っていました。人通りの少ないルートを選んで移動して新幹線の改札口で JR 東日本の方に引き継いでくれました。更にその方が東京駅構内の移動(これが長い)をしてくれて、「さあ次からは頑張らなくて」と思っていた地下鉄丸の内線に着くと、何と地下鉄の職員の方が別の車椅子を持って立っていて、母はそこで移乗されました。すでに通勤ラッシュにさしかかる時間でしたが、座席まで連れて行って座らせてく

